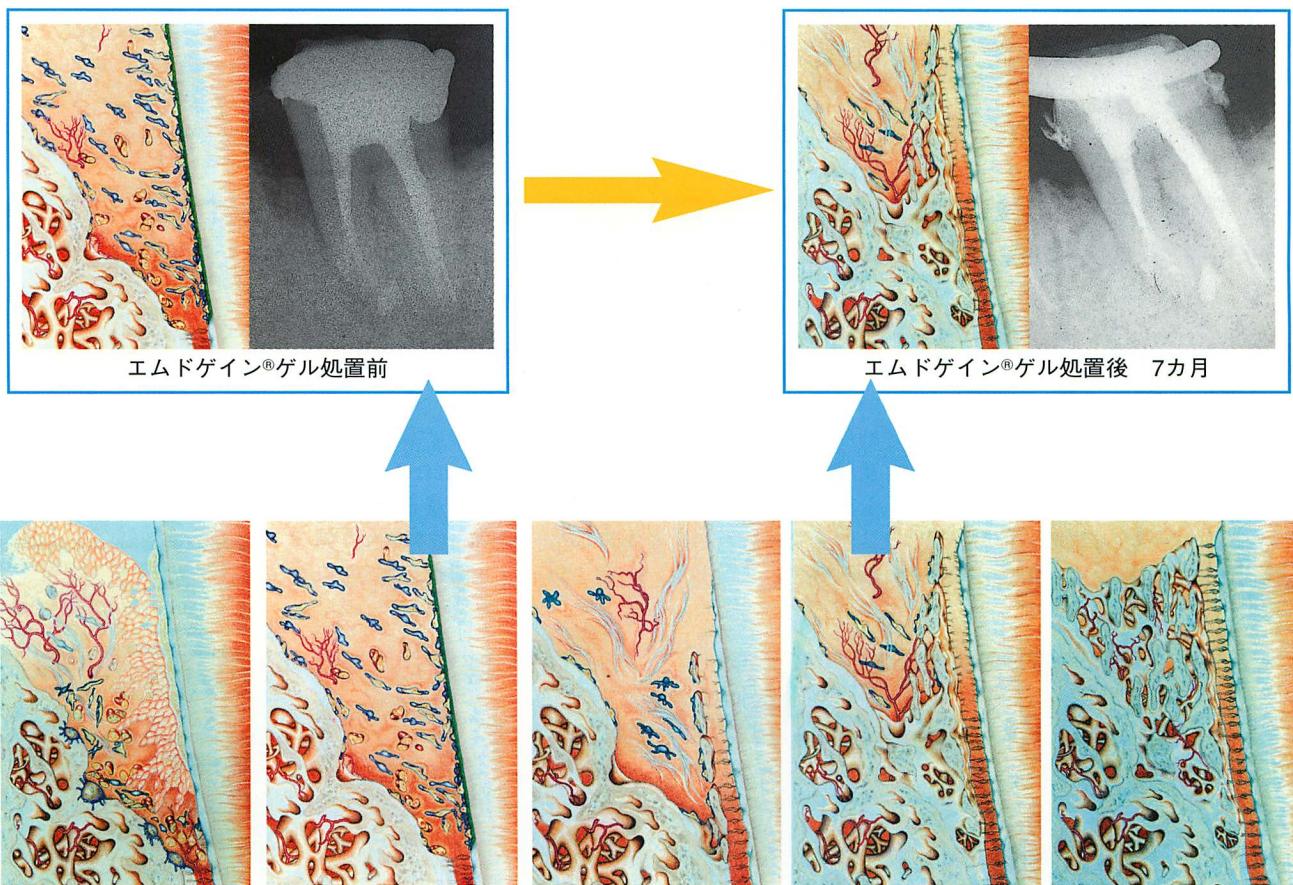


ブタ歯胚組織使用歯周組織再生用材料

エムドゲイン[®]ゲル

臨床ケースレポート No.5



SEIKAGAKU CORPORATION

エムドゲイン®ゲル臨床ケースレポート

中島 康雄先生
神戸市 高田歯科勤務



No. 6

患者：男性、52歳、非喫煙者
部位：左側下顎7

●患者背景

患者は52歳の男性で、下顎左側臼歯部の歯肉腫脹を主訴に来院。精査した結果、左下第2大臼歯近心部に深い歯周ポケットと、X線像より、歯槽骨吸収像を確認した。全身の既往歴に特記事項はなく、非喫煙患者であった。

●臨床所見

疼痛等の急性症状がなかったため、初期治療として通常の口腔清掃指導、SRP処置を行った。対象部位の歯牙動搖はなく、再診査時の対象部位のPD値は右表のとおりである。

			単位=mm
			L
M	4	3	3
	8	4	3
			B

●歯周基本治療

初期治療として通常の処置を行った。特記としては、不適切な歯内療法が行われていた為、再度処置を行った。

●歯周外科処置

再診査の結果、第二大臼歯部近心に深いポケットが残存しているのを確認。同部位に対して歯周外科処置を行った。その際、術中写真のように舌側骨に比べて頬側骨の欠損が著しいことを確認した。エムドゲイン®ゲルを使用予定のため、その効果を十分期待できるよう粘膜骨膜弁（創面が可逆的に覆われて、エムドゲイン®ゲルがもれにくいうよう）を形成した。通法どおり、徹底的に汚染された組織のデブライドメントを行い、新生組織の速やかなる形成を期待して、エムドゲイン®ゲルを根面に塗布した。弁は過不足なく緊密に創面を覆わせ、縫合を行った。術後は抗生素の投与を4日行った。直視下では、左側下7はI度の分岐部病変でもあったが、比較的軽度であると判断し、この部についてはエナメル突起を除去し、デブライドメントのみ行った。



初診（補綴物除去時）



術 中



初 診



エムドゲイン®ゲル処置前

●術後経過

術後、特記事項なく良好に経過している。術後7ヵ月後のX線所見では、エムドゲイン®ゲルが作用したと思われる特徴的な像を確認することができた。肉眼的には歯肉退縮等みられず、経過を追うとともに、統けて全顎治療を行っている。

\bar{x} PD値

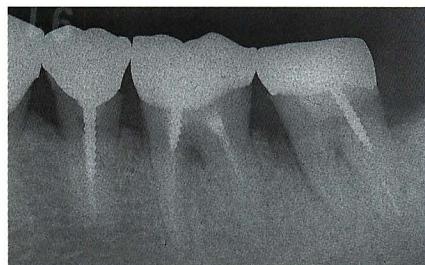
単位 = mm

術 前			術後4ヵ月			術後7ヵ月			術後14ヵ月		
M	L	B	M	L	B	M	L	B	M	L	B
4	3	3	3	2	3	3	2	2	3	2	2
8	4	3	4	3	3	4	3	2	3	2	2

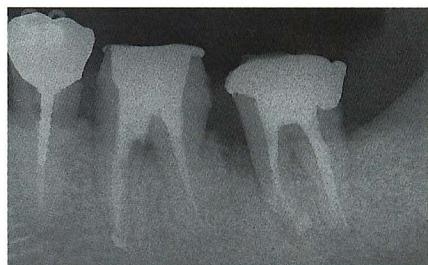
\bar{x} CAL値

単位 = mm

	術 前	術後4ヵ月	術後7ヵ月	術後14ヵ月
CAL	8	4	4	3
CAL獲得量	-	4	4	5



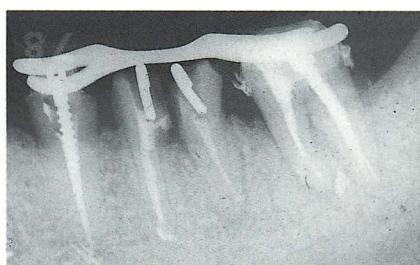
初 診



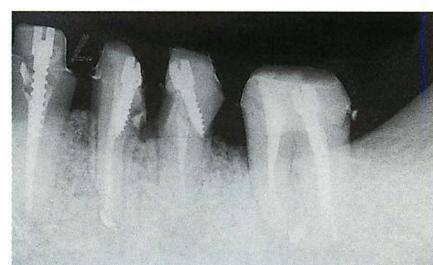
エムドゲイン®ゲル処置前



術後 4ヵ月



術後 7ヵ月



術後 14ヵ月



初診（補綴物除去時）



術後 14ヵ月

●術者コメント

- ・CAL獲得量は14カ月後で5mmであった。
- ・様々な臨床所見より、エムドゲイン®ゲルの特徴とされる歯根面からの組織再生経過をたどった症例と思われる。
- ・今現在、全顎治療の途中経過であり、対象歯は遠心傾斜移動中で、今後も注意深い観察が必要である。
- ・エムドゲイン®ゲルは、あくまで補助的に用いるものであり、その目的を達成するためには、やはり従来どおり基本術式の遵守にあるものと考える。今現在、様々なサイトカインを応用した、新たなる再生療法が試みられている。それらも含めて、比較検討する必要がある。

●指導医コメント



高田 勝彦 先生

日本臨床歯周病学会 指導医

- ・再生療法は、術者の技術のみならず、十分な経験と知識に基づいて行われるべきであり、安易に行われるものではない。特にMGSの技術を十分理解・修得し、また患部のデブライドメントおよび根面処理が術後の治癒を大きく左右する。
- ・今回の症例において、エムドゲイン®ゲルが作用したと思われる臨床所見を得ることができた。その適応症、基本術式を確実に遵守してこそ、今回のような結果を得ることができる。
- ・エムドゲイン®ゲルの作用については様々な議論がいまだあるが、これを確認するためには、対象部位組織切片を採取し、病理診断をすることが確実だが、臨床においては、X線像、PD値、CAL等により判断する他ないのが現状である。
- ・今後も、このエムドゲイン®ゲルを使用した再生療法を行うことにより、多数の歯牙保存の可能性が、示唆されるであろう。

●参考文献／参考資料

- ・エムドゲインを用いた再生療法の基礎と臨床

David L.Cochran, Jan L.Wennstrom, Eiji Funakoshi, Lars Heijl

- ・Mombelli A.,Brochut P.,Plagnat D.,Casagni F.,Giannopoulou C.: J Clin Periodontol,32(3):225-230,2005

- ・Bosshardt DD.,Sculean A.,Windisch P.,Pjetursson BE.,Lang NP: J Periodontal Res,40(2):158-167,2005

- ・Rosing CK.,Aass AM.,Mavropoulos A.,Gjermo P.: J Periodontol,76(1):129-133,2005

製品の購入に関するお問い合わせ先

販売業者



学術営業推進本部

〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9

Telephone:03-3845-2951

Faxsimile :03-3845-2726

選任製造販売業者



生化学工業株式会社

機能化学品営業部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6-1

Telephone:03-5220-8955

Faxsimile :03-5220-8958

URL : <http://www.seikagaku.co.jp/>

エムドゲイン®ゲルに関するご質問・資料請求は上記までご連絡下さい。